

プレミアムサロンクルーザー「EXULT 43」 EXULT 43 Premium Salon Cruiser

武富 大海



Abstract

10 years have passed since the launch of the pinnacle of the Yamaha boat range, the EXULT45 Convertible. The EXULT36 Sports Saloon launched the next year won the 2009 Japan Boat of the Year award and is still in production and loved by many customers. Accumulated production of the EXULT series has now reached over 100 vessels, and many customers are anticipating the next step in its development. Yamaha Motor has developed the Exult 43 Premium Salon Cruiser to outclass the best imported boats from around the world, worthy of the title “Yamaha brand flagship.”

1 はじめに

ヤマハボートの最高峰モデルとして誕生した、EXULT45 Convertible のデビューから 10 年が経過した。

その翌年に開発された EXULT36 Sports Saloon は、2009 年度日本ボート・オブ・ザ・イヤー大賞を受賞し、現在もフル生産を行っており、多くのお客様に認めて頂いているモデルとなっている。EXULT シリーズとしては、累計 100 隻以上の販売実績を上げ、次のステップアップを望む声も多い。そこで、世界の一流輸入艇に負けないモデルを造り、ヤマハブランドを輝かせる“FLAG SHIP”の名に恥じない最高級ボートを目指し、プレミアムサロンクルーザー「EXULT 43」を開発するに至った。

2 製品概要

2-1. 開発の背景

2009 年発売の EXULT36 Sports Saloon が多くのお客様の支持を受け、国産サロンクルーザーとしての地位を築き、

富裕層マーケットにもヤマハブランドが浸透した。

多くのヤマハファンを獲得できたが、お客様がステップアップを望んでも、当社はそれに応えるサロンクルーザー系のモデルを持っていなかった。その結果、輸入艇などにお客様を流出させる図式となっていた。

2-2. 開発の狙い

本モデルの開発は、EXULT36 Sports Saloon により得ていた顧客の受け皿および、輸入艇に流れていた顧客を取りこむべく、自社艇や競合艇を凌駕するデザインとパフォーマンスを兼ね備えたモデルを投入することを目指し、以下の効果を狙った。

1. EXULT シリーズの基本理念「JAPAN PREMIUM」を継承し、世界に通用するデザイン／MADE IN JAPAN の品質／最上級のもてなし空間で、ヤマハブランドを昇華させる。

2. サロンクルーザーのラインナップ構築により富裕層需要を囲い込み、ビジネス領域を拡大する。

2-3. 主要諸元

「EXULT 43」の主要諸元を表1に示す。

表1 主要諸元

EXULT 43 主要諸元	
全長	14.84m
全幅	4.44m
全深さ	3.09m
艇体質量	13,213kg
完成質量	16,159kg
搭載エンジン	VOLVO PENTA IPS500 × 3
搭載エンジン出力	272kW (370ps) × 3
燃料タンク容量	1,800 リットル
清水タンク容量	440 リットル
FB 定員	10 名
定員	15 名
航行区域	沿海
価格	147,000 千円

2-4. モデルの概要と特長

2-4-1. クラスを超えた居住性への挑戦

- 1) 本艇より格上の競合艇に負けない居住空間を目指した。広さだけではなく所有する喜びを得られるよう、本物志向にこだわった素材を随所に取り入れたインテリアデザインとした(図1、2)。
- 2) 本艇のターゲットユーザー向けに行われたヒアリングから、サロンやボートの二階部分に相当するフライングブリッジなど、大勢がゆったりくつろげる空間のニーズが高かったため、クラス最大の広さを実現した(図3、4)。



図1 サロンラウンジソファとテーブル

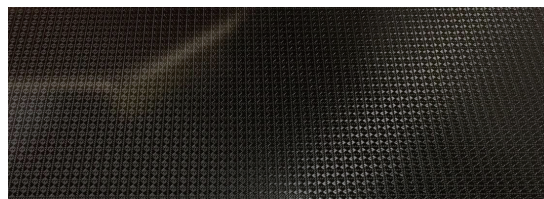


図2 サロンテーブル 西陣織カーボンパネル



図3 フライングブリッジ(前方)

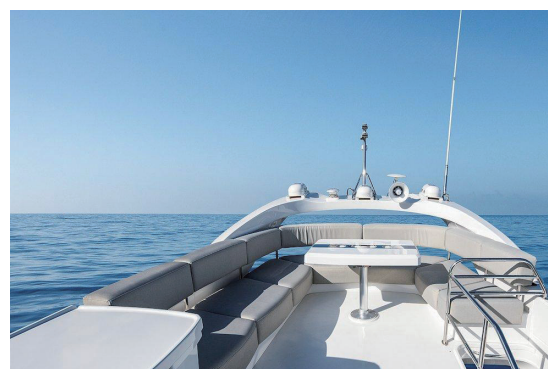


図4 フライングブリッジ(後方)

2-4-2. 速力／乗り心地などの性能 UP

- 1) 国内量産艇として初のIPS(インボード・パフォーマンス・システム)3基掛けを搭載することで、高い推進効率により、優れた燃費性能(当社従来比△28%)を実現した(図5)。
- 2) 船型の開発には、当社独自のシミュレーション技術を利用し、IPS推進器にベストマッチする新船型を開発した。船体一体型のビルジキール形状のチャイン(アンチ・ローリング・ブレード)により、走行安定性、凌波性、横揺れ減衰性、ドライネス(しぶきの上げ難さ)をさらに高め、快適なクルージングを実現した(図6)。
- 3) ジョイスティックシステムの採用により、低速時にはレバー1本で操作が可能となり、離着岸時などの操船性の向上を図った(図7)。



図5 IPS×3基



図8 マリンジェット搭載



図6 船型

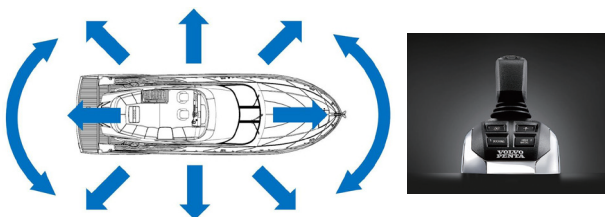


図7 ジョイスティックによる容易な離着岸が可能

2-4-3. マリンジェット搭載ニーズへの対応

国内量産艇として初めて、当社マリンジェットを搭載することを念頭に開発を行った。

一般的に船尾へ重量物を搭載することは航走姿勢に大きな影響を与え、加速時に船首が上がり前方視界が悪くなる。本艇では初期からの重量重心検討および、能力に余裕を持ったオートフラップ（自動姿勢制御）を標準搭載し、実験評価にて最適化させた。結果、マリンジェットを搭載しても、走行性能が落ちることなく、快適なクルージングを行うことができ、ヤマハブランドの強みを生かすことができた（図 8、9）。



図9 昇降式トランサムステップ

2-4-4. 熟成・進化したデザイン

従来はハル（船体）とデッキ（上部構造物）との接合部分をアルミ製や樹脂製のガンネル（防舷材）によって隠す工法をとっていたが、本モデルにおいては、EXULT36 Sports Saloon 同様にガンネルを必要としない構造を採用した。これにより、ガンネルによって分断されていたハルとデッキのデザインを一体感のある塊で表現することができた（図 10）。

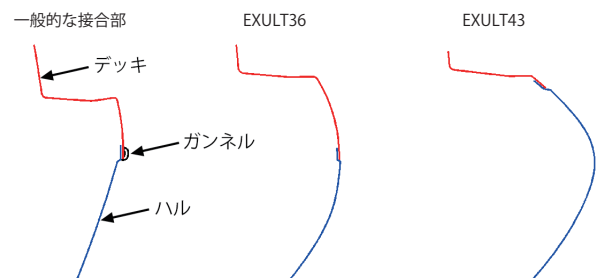


図10 デザイン自由度を増した接合部の進化

また、分割位置を工夫することにより、デザインの自由度を上げ、FRP の最大の特徴である流麗な形状を実現することができた。同時に船体の剛性アップにもつながり、走りの質感を高級・上質なものと向上することができた（図 11、12）。



図11 流麗なデザインの船首部形状

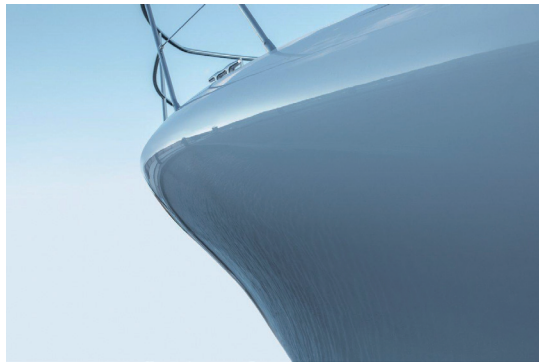


図12 シームレスな船首部形状

本艇では、「日本が誇るプレミアムボート」を作り上げるために、『デザイン発想のモノづくり』として、従来のモノづくりではなく、デザイン起点のプロダクトに挑戦した。

全体監修のデザイン部門とは膝を突き合わせて議論し、機能性／生産性を満足させつつ、自由なデザイン発想を実現させることができた（図 13、14、15、16）。

インテリアデザインは、本物の素材を求める富裕層のニーズにあった素材を吟味し、本皮や銘木という高級材（ウォールナット・シカモアなど）を、匠の技で仕上げることで、極めて上質でいて、今までにない新しい感性を取りこんだインテリア空間に仕上げた（図 17、18、19）。



図13 外観 前方



図14 外観 上方



図15 外観 側面



図16 外観 後方



図17 メインサロン



図18 バウオーナーズルーム

■著者



武富 大海

Hiromi Taketomi

マリン事業本部

ボート事業部

製品開発部



図19 ミドルオーナーズルーム

3 おわりに

IPS 3 基掛けでの性能成立や、デザイン起点の製品造りなど課題は多かったが、「洋上の迎賓館」となるべく国内の協力メーカーとタッグを組み、最上級のプレミアムボートに相応しい、唯一無二の商品を世に出すことができた。

2008 年発売の EXULT45 Convertible、2009 年発売の EXULT36 Sports Saloon、2014 年発売の EXULT38、そして 2018 年発売の EXULT43 と、ヤマハが誇る大型艇に携わることができ、大変ありがたく感じている。企画から発売まで多くの方にご協力を頂いた本艇が、今後長く愛されるボートになることを願っている。